

家庭教育力の強化を図る

## 家庭・学校・地域の連携を深めるPTA活動を目指して

－関わり合い、顔の見える関係づくりから－

東海市立富木島小学校PTA

### 1 はじめに

本校は昭和39年に上野町立平洲小学校の分校として設立され、翌40年に上野町立富木島小学校として開校された。昭和44年には、上野町と横須賀町が合併して東海市が誕生し、東海市立富木島小学校となった。市には製鉄を営む企業が入り、全国各地から人が集まり、開校2年目には児童数が360人から866人へと倍以上になっ



【富木島小学校校舎】

ている。昭和45年の児童出身地調べでは東北地方が最も多く37%であった。この時の児童が保護者世代となる平成18年度の父母出身地調べでは、東海市が21%、愛知県が37%であった。現在、本校では伝統芸能の学習時においては、北海道の伝統文化である「地獄太鼓」にルーツをもつ「富木島太鼓」、東北の伝統文化である「虎舞」や「花笠音頭」を地域の方が講師として児童の指導に当たっている。

児童数は平成20年度、440名であったのが年々増加し、昨年度は871名にもなった。今年度は854名となり、今後、徐々に減少する傾向にある。PTA会員数は649名であり、子どもたちの学習支援活動や環境整備活動等にボランティアとして参加する会員も多くおり、学校支援協議会の活動にも参加するなど様々な立場から校訓「自ら学ぶ」「行いで示す」「体を鍛える」を体現する子どもたちの育成に取り組んでいる。

### 2 研究への取組

#### (1) 研究のねらい

保護者と児童がよりよく生きることや生活環境を整えていくために、相互にコミュニケーションがとれる機会をつくり出し、家庭教育力の充実を図っていく。

#### (2) 取組の手だて

子どもの幸せを願い、よりよく育もうという思いをともにする保護者と教職員が、一つ一つのPTA活動の目的をともに理解し、子どもたちに働きかけをしようとする機運を醸成することが、家庭教育力を充実さ

せる礎になると考える。

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年行ってきた様々な活動がままならない状況である。そのため、PTA役員・学年委員長・専門委員会委員長と学校管理職や委員会担当教職員が連絡・相談を密にしながら、子どもを通じた情報発信をもとに家庭への働きかけを行うこととした。

### (3) PTAの組織

本校は、会長1名・副会長3名（母親代表、校長含む）、書記3名（教頭・教務主任含む）、会計2名（校務主任含む）の9名で、PTA役員会を構成している。また、各学年から6名ずつ選出される学年委員が学年委員会を組織するとともに、専門委員として「研修」「広報」「環境保健」の専門委員会に所属をしている。専門委員会には各地区の地区委員から構成される「地区委員会」もある。そして、PTA役員会メンバーと学年委員長、専門委員会委員長で常任委員会を構成し、PTA活動内容等についてはここで協議し決定がされている。

## 3 実践活動の概要

### (1) 子どもたちの健康安全を守る、環境を整える活動（環境保健委員会）

#### ① 学校保健委員会

年に3回（本年度は2回予定）PTA環境保健委員が参加して、学校保健委員会を実施している。毎年、児童の状況に応じて必要とされる安全・健康への意識及び実践力の向上を目的としてテーマが設定される。今年度は新型コロナウイルス感染症対策にスポットをあて、感染症予



【パソコン教室の様子】

防について考えていく。第1回は、密を避けるために、児童は各自の教室、担当者と環境保健委員はパソコン教室で、大型テレビを通したリモート形式で会が開催された。予防対策として実施している「手洗い」について、委員も児童も振り返りとともに考えを深めることができたようであった。

対象となった5・6年児童には、各家庭での感染症予防について保護者とともに振り返りができるように感想用紙を準備した。次回の学校保健委員会では、その声を取り入れ、さらに考えを深められるようにしていく。

#### ② 花による心に潤いのある環境作り

学校の臨時休業期間、委員によるPTA活動を行うのが難しい状況の中、「父母と教師の会（PTA会則でPTAをこう謳っている）」の会員である教職員による花の苗育てが行われた。その目的は、新型コロナウイルス感染症が影を落とす生活を送る多くの家庭に少しでも

元気や心の潤いをもたらすことであった。学校が再開し、児童を通して保護者に花の苗の配布を知らせたところ、予定していた全ての苗が3日かからずに引き取られていった。親子で花の世話をしているという児童の声も届いている。



【芝桜定植作業の様子】

また、10月には委員による、パンジーのポット移植作業や、校門を入ると目にとびこんでくるロータリーの花壇への芝桜の定植作業が行われた。ロータリーは学校を訪れる誰もが目にする場所であり、春にはピンクの可憐な小さな花による花の絨毯が訪れる人の心を和ませるものとなると思われる。

(2) 子どもたちの安全を守る活動（地区委員会）

本校PTAの地区委員会は17地区の委員から構成されている。委員は、各地区から1～3名を選出することになっている。地区委員会は、児童の登下校の様子の情報交換や安全を守るための活動を協議し、会員の登校時の交通立哨や1年生の下校時のパトロールが行われるようにしている。下校パトロールに参加した会員には、気になることや感想を提出してもらい、その声をもとに学級担任から交通安全



【下校パトロールの様子】

について児童の意識を高める働きかけが行われている。また、昨年度から、地区委員による一旦停止を示す足形マークの確認作業が行われ、現在、交通ハザードマップの作成を進めているところである。

(3) 保護者同士のつながりや心に豊かさを生む活動（研修委員会）

研修委員会では会員である保護者の見識を広げたり、日ごろの生活にゆとりや豊かさをもたらしたりすることにつながる体験活動をすることを目的に毎年2回研修会を開催している。これまでに「おいしいコーヒーの入れ方教室」「トマト料理調理実習」



【トマト調理実習 料理】

「UVレジン制作」など、日常生活をより豊かにする研修が行われてきた。本年度は、新型コロナウイルス感染症の状況から、対策を十二分に講じた上で3学期に開催できるように計画を進めている。その内容としては「性教育(命育)」「小学生のスマホ事情」「お片付け講座」「金銭教育」等が上がる中、委員が一番切実に開催を希望しているのが「反抗期の子どもに対する接し方」である。正しく、家庭教育力の向上につながる内容であり、その実現へ向け、委員会と役員会が連携して取り組んでいる。

(4) 子どもの声や様子を保護者に届ける活動（広報委員会）

広報委員会では、毎年3回、PTA新聞を発行している。発行は毎学期の子どもが登校する最終日となっており、家庭に持ち帰ったPTA新聞をもとにして、学期の振り返りができることをねらいとしている。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から、発行回数が2回と減少するが、ページ数を各回4ページ増やすなど、年間の総ページ数を例年より多くし、親子の会話の機会を増やせるよう計画している。

(5) 地域コミュニティとの連携

PTA副会長と書記（教頭）は、地域コミュニティの常任委員として毎月1回開催される常任委員会に参加をしている。学校やPTAの取組を紹介し、理解を得るとともに児童や保護者がコミュニティの活動に関わることができるように協力体制を整えている。

コミュニティが主催する「納涼盆踊り大会」や富木島公民館が主催する「公民館まつり」では、役員会のメンバーが担当するブースで、たませんづくりや販売を行い、活気を高めている。メンバーがブースを訪れる親子に声をかけ、その受け答えを通した親子の笑顔が多く見られている。



【公民館まつり

児童の発表の様子】

(6) 子ども会との連携

子どもたちに伝統行事である「もちつき体験を！」を合い言葉に、ふきしま子ども会連合が主催するもちつき大会にPTA役員や会員が、会の運営に携わっている。地域コミュニティの方々も加わり、「よいしょっ。よいしょっ。」の音が響き渡る中、子どもたちにとっては、大人が和気あいあいと協力して活動する姿を目にする機会となっている。毎年、児童からの「お母さんも、おじさんたちもにこにこしていて、大きくなったら自分もその輪に入りたい」という声を耳にしている。PTAとして地域とのつながりのよさを子どもたちに感じてもらえることができるとても大切な機会としてこれからも運営に力添えをしていきたい。



【もちつき大会の様子】

#### 4 おわりに

家庭が子どもたちにとってほっと一息つくことのできる安心の場であることが何より子どもたちの健全な育成につながる。だからこそ、保護者が関わり合い、顔の見える関係を広げることにより、子どもたちをともに育てている安心感を得られるよう、これからもPTA活動をより充実させていきたい。